大阪
2016年（平成28年）3月28日（月）

おおさか支局
〒530-8251（住所不要）
毎日新聞社会部おおさか支局
TEL06・6346・8443
FAX06・6346・8444

メールはat-osaka@mainic
読者の皆さんの取り上げてほ
マなど、お寄せください。

【購読お申し込み】
フリーダイヤル0120-46

熊野古道 みちくさ記 5

住吉大社から方違神社へ

絵と文・熱田親憙　題字・熱田秦華

今も昔も変わらぬ願い

住吉大社（大阪市住吉区住吉）にて

天王寺から庶民の足である阪堺電車に飛び乗り住吉で途中下車。熊野街道に沿う住吉大社に立ち寄った。

ちょうど吉祥殿で結婚式を終えた新郎新婦に出会う。親族に祝福されながら、神職と巫女さんに先導されていた。一歩遅れて歩く小柄な新婦さんは大きな純白の角隠しで髪を覆い赤い太鼓橋をバックに家族で記念撮影。新緑の神木に囲まれて契の儀式に相応しい神聖な舞台であった。

本宮を奥手に進むと樹齢約1000年の楠を神木にしたお稲荷さんがあり、毎月最初の辰の日を参詣日として にぎわう。初辰さんに毎月来て招福猫を受けて48回満願の月詣でを楽しんでいるという女性に出会った。彼女は1回怠ると忘れ物したようで落ち着かないとか。月詣でが人生の句読点になっておられるようだ。彼女と共に種貸社をたずねた。改築されて入りやすい構えになっており、五穀豊穣の元種の神として有名である。キーワードは「一粒百倍」。稲の元種から子宝、資本、智恵の元種まで御利益の範囲が広げられ、限りのない人の願いが信仰の源になっている。

種貸社の隣には、住吉大神のご加護をえて、老夫婦に授かったと御伽草子に掲載されている一寸法師のお椀がある。少し離れた神木の木元には、丹後局が難を逃れてここの石につかまり、薩摩藩の祖、島津忠久公を無事出産したといわれる誕生石が横たわっている。住吉大社は昔海辺で、海の守護の社だった。それが今は、産みの守護神としても多くの参拝者を得ている。

住吉を経て熊野街道は南海高野線沿いに移り、最寄りの堺東駅にて下車。堺と葛城を結ぶ長尾街道に出てガードを潜ると右手に方違神社がある。創建は紀元前90年と古い。当地は摂津、河内、和泉の三国の境に位置し、方角のない聖地にあることから方災除けの神として崇められている。旧都の難波と飛鳥を結んで東西に走る竹内街道、南北に走る熊野街道の交差点として奈良時代から往来が激しく、当神社は休憩の場にもなっており、今でも参詣者が多いせいか、門前のそば店も活気が感じられる。古人にとって新転地に移り住まなければならない場合や旅に出る時、喜びと共に不安が募り、ご加護を求めたのであろう。今でも、引っ越しや海外旅行の際、参拝する方が多いという。

堺東駅からバス停、山の口橋で下りて、沢庵和尚により再建された南宗寺を訪ねようと川を渡ろうとしたら、「ここから小栗街道」と表示があり、橋の欄干に熊野詣での絵が4枚貼り込められていた。小栗判官、照手姫の物語を思うと室町時代の参詣者のにぎわいが聞こえてきそうで、しばしたたずんでしまった。足元に流れる土居川は室町時代に貿易で繁栄した堺が自治都市として堅固な町にするためにつくった環濠の遺跡であった。この環濠も大阪城の築城を機に取り壊しとなった。橋下徹・前大阪市長が「大阪都構想」を進めていたとき、堺市を巻き込んで特別区設置を迫った昨今の出来事とダブり、歴史は繰り返される事を痛感した。

今回は産み出すことに喜びを得たい人と、変化を求めながらも安全でありたい人というニーズの違った二とおりの方達が参拝する神社を訪ねた。人間の欲望は昔も今も変わらぬことを感じた一日となった。

（次回は4月25日掲載予定）